

令和7年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第6学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

■実施日時：令和7年4月17日（木）

■参加者数：小学校7校 児童数 6年生 357名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果（評価）

	国語	算数	理科
小学校6年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です（文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています）。

(2) 各教科の状況について ○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける。
算数	○角の大きさについて理解している。 ●分数の加法について、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、理由を言葉や数を用いて記述する。 ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える。 ●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉で記述する。
理科	○水のしみこみ方の違いについて、実験の方法を発想し、表現することができる。 ●レタスの種子の発芽の条件について、新たな問題を見だし、表現する。 ●身の回りの金属で、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。 ●電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する。 ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・全体的に無回答率の割合が全国・県に比べて低く、記述式の問題については、全国・県と比較すると、無回答率が特に低い状況にあり、問題に対して諦めずに組む姿勢が伺えます。
- ・「評価の観点」で見ると、「知識・技能」に比べて、課題を多角的に考えたり、論理的に説明したりする「思考力・判断力・表現力」について課題があります。
- ・問題形式別では、「記述式」の問題に課題があり、国語・算数・理科のいずれの教科でも、筋道を立てて説明することに課題があります。

②各教科の状況

【国語】

- ・「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる」では、正答率が高くなっています。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の正答率が高くなっています。
- ・「読むこと」に関する「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる」において、正答率が低くなっています。

【算数】

- ・「角の大きさについて理解している」「異分母の分数の加法の計算をすることができる」では、正答率が高くなっています。
- ・「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分として捉える」では、正答率が低くなっています。
- ・「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる」「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」では、記述式で正答率が低くなっています。

【理科】

- ・「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違い」の設問では、正答率が高くなっています。
- ・「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている」では、正答率が低くなっています。
- ・「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する」では、記述式で正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（児童質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」等の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回っており、基本的生活習慣、家庭での良好な環境が備わっていると考えられます。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目においては、肯定的な回答が全国平均を大幅に上回っているとともに、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」等の項目においても上回っており、自己有用感や自己肯定感の高まりが感じられます。
- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目において、全国平均を上回る回答率となっており、規範意識が育っていると思われます。
- 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」の回答も高く、他者との関わりを通して共によりよく過ごしていこうとする様子が見て取れます。
- ◆平日、土日ともに家庭学習の時間が短い児童が多い状況にあります。
- ◆新聞を読む機会がない児童が多くみられます。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取組を推進します。）

■基礎学力の定着に向けて

- ・朝学習や補習の時間、家庭学習等を利用し反復学習を積極的に進め、基礎・基本の定着を図ります。
- ・タブレット端末でデジタルドリル学習等を活用し、個別最適な学びを進めていきます。

■主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させられるよう、ICT機器を効果的に活用しながら学習者主体の授業づくりを積極的に進めていきます。
- ・グループワークやペア学習を取り入れ、各教科等の授業において身に付けたことを様々な課題の解決に活用することができるような機会を設けていきます。

■生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・基本的生活習慣、家庭学習習慣の定着に向けて、家庭との連携を図ります。
- ・富士山学習における「地域を知る学習」と「交流活動」において、地域の人材を積極的に教育活動に活用しながら充実を図り、自分の住む地域に関する興味・関心を高めます。
- ・朝読書等に継続的に取り組みながら読書活動を推進します。
- ・コミュニティ・スクールとして、学校や児童に関わる課題を共有し、地域と協力していきます。

子どもたちは、自己肯定感や規範意識を高めながら、夢や希望を持って生き生きと学校生活を送っています。今後も、一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、学校、家庭、地域の連携を深め、子どもたちの成長を支えていきたいと思います。

【問い合わせ先】

富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766